

令和8年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①自立と社会参加をめざし、系統性のある小・中・高一貫した教育課程の編成と学ぶ楽しさを実感し、主体的な活動を引き出す授業づくりに取り組む。	①-1 系統性のある教育課程に向けた検討を具体的に進めるとともに、学ぶ楽しさを実感できるように、教育内容の充実を図る。 ①-2 生活年齢や発達段階にあわせて、ICT機器活用による学びを推進する。	①-1-1 「育てたい子ども像」を踏まえ、小中高の系統性を意識し、教育内容の充実に向けて教育課程の改善を進める。 ①-1-2 興味・関心に基づく学び、主体性を引き出す学び、実体験を通じた学び、協働的な学びの充実を図る。 ①-2-1 電子黒板をはじめとするICT機器を積極的に活用し、取組を学校全体で集積・発信・共有する。 ①-2-2 生活年齢や発達段階にあわせて、機器の適切な使い方や情報の扱い方等、情報リテラシーの学習を推進する。	①-1-1 小中高の系統性を意識し、教育内容の充実に向けて教育課程の改善を進めることができたか。 ①-1-2 興味・関心に基づく学び、主体性を引き出す学び、実体験を通じた学び、協働的な学びを充実できたか。 ①-2-1 ICT機器を活用した授業の充実を図り、取組を学校全体で集積・発信・共有できたか。 ①-2-2 機器の適切な使い方や情報の扱い方等、情報リテラシーの学習を推進できたか。					
2	児童・生徒 指導・支援	①児童・生徒個々の個性を尊重し、教育的ニーズを適切に把握し、生活年齢、発達段階に合った指導・支援を組織的に行う。	①児童・生徒の教育的ニーズを把握するための客観的指標を活用し、指導計画に反映して指導・支援を行うとともに、組織的な取組としての定着を図る。	①-1 「得意なことを伸ばす」「苦手なことは段階的に挑戦する」という視点で、個別教育計画や年間指導計画等を立案し、教員と保護者の共通理解のもとに指導及び評価・改善を行う。	①-1-1 「得意なことを伸ばす」「苦手なことは段階的に挑戦する」という視点で、個別教育計画や年間指導計画等を立案できたか。 ①-1-2 教員と保護者の共通理解のもとに指導及び評価・改善を行うことができたか。					
3	進路指導・支援	①一人ひとりの将来の自立と社会参加のあり方を見据え、発達段階とライフステージに沿った進路指導・支援を組織的に行う。	①-1 保護者への進路支援の理解促進と情報提供を行う。 ①-2 自己理解、自己肯定感を高めるとともに、主体的に自分の将来像を描くことができるようにする。	①-1-1 保護者向け広報や説明会を定期的実施し、進路支援について具体的なイメージを提供する。 ①-2 好きなことや得意なことに気づける場面や、活動を振り返り自己理解を深める場面を設定し、主体的に自分の将来像を描けるようにする。	①-1-1 保護者のニーズにあわせたテーマでの学習会・見学会等を検討し、実施できたか。また、HPへの掲載等を通して積極的な発信を行うことができたか。 ①-2 自己理解、自己肯定感を高めることができたか。また、主体的に自分の将来像を描くことができたか。					

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4 地域等との協働	①共生社会の実現に向けて、地域におけるセンター的機能を継続するとともに、コミュニティ・スクールとして地域との協働による教育活動を展開する交流及び共同学習を通じた児童・生徒の相互理解を図る。	①-1 学校コンサルテーションを意識した取組を推進し、巡回相談の質の向上を図る。 ①-2 地域学校協働活動本部を立ち上げ、地域との協働による教育活動を推進する。	①-1 学校コンサルテーションを意識し、学校の教育力・組織力を高めるための情報発信や助言等を積極的に行う。 ①-2 地域学校協働活動推進員を中心に地域学校活動本部を立ち上げ、本校の取組を引き継ぐとともに、地域学校活動本部を中心とした地域資源の活用を積極的に進める。地域との協働体制の見直しと役割分担の明確化を図る。	①-1 より質の高い情報発信や助言等を行うことができたか。 ①-2-1 地域学校活動本部を生かして、地域資源の活用を推進することができたか。 ①-2-2 地域との協働体制の見直しと役割分担の明確化を図ることで、教員の業務負担を軽減することができたか。					
5 学校管理 学校運営	①児童・生徒が安心、安全に過ごせる教育環境の整備と危機管理体制を構築する。 ②事故、不祥事のない学校であるよう、管理・運営を行う。	①-1 老朽化に対応した工事を安全に実施する。 ①-2 実際の場面や状況を想定し、即応体制を整えとともに、より実践的な防災訓練等を実施する。 ②事故、不祥事を他人事ではなく自分事として捉える職場風土を醸成する。また、神奈川の教員の働き方改革加速化宣言（令和7年3月28日）を受け、働き方改革をさらに推進する。	①-1 計画的に工事を実施するとともに、緊急時の対応を迅速に行う。 ①-2 実際の場面や状況に備え、持ち出し物品の内容や配置の見直し、マニュアル整備等を行う。また、様々な想定をもとに訓練等を実施する。 ②-1 教員が講師となる研究会や、教員が主体的に考える研究会を実施する。 ②-2 さん付け呼称等、人権を尊重した教育活動を徹底する。 ②-3 引き続き業務や行事等の見直しや効率化など、精選を行う。また、外部人材の拡充や校務DX化の推進をする。	①-1 安全に、計画的に工事を実施することができたか。また、緊急時は迅速に対応できたか。 ①-2 即応体制の整備を行うことができたか。実際の場面や状況を意識した訓練を実施できたか。 ②-1 教員一人ひとりが主体的に参加できる研究会を企画・実施できたか。 ②-2 さん付け呼称等、人権を尊重した教育活動ができたか。 ②-3 業務や行事等の精選を行うことができたか。また、外部人材の拡充や校務DX化の推進ができたか。					